

フィールドワークのレポート

氏名: 姜 佳文

● 背景

私は平成 27 年 10 月から平成 28 年 5 月まで、カナダのバンクーバーのブリティッシュ・コロンビア大学 (以下 UBC) へ交換留学しに行った。この留学は研究を目的とするため、平成 27 年の 2 月から受け入れ教授受け入れの教授を見つけるまで、連絡をした教授は 10 人近くいたが、まだ投稿した論文がなかったため、なかなか返事が返ってこなかった。幸いに、留学先の大学の Sauder Business School で交通経済学を研究する教授から受け入れ許可をいただき、彼の元に中国の航空と高速鉄道に関する研究をすることになった。

カナダへ 6 ヶ月以上に留学をする場合は、Study Permit を申請する必要がある。これはオンライン申請ができるが、審査はマニラのカナダ大使館で行われ、通常の受理期間は 7 週間と書いてあったが、実際 10 週間ほどかかり、出発の 7 時間前にやっと手に届いた。

留学先の寮はすでに満員となったため、オフキャンパスで住所を探す必要がある。渡航の時期が明確ではなかったため、出発の一週間前から急いで kijiji と Craigslist で泊まる場所を探し、とてもラッキーで、早く泊まる場所を見つけた。宿泊先ではもう一人の女子学生と Basement をシェアし、図 1 のように自分で部屋はあるが、キッチンとシャワー室を共有していた。家賃は 650 カナダドルだが、バスで大学まで 20 分ぐらいの好立地だったので、よく現地の友人に安いと言われていた。



図 1 泊まる場所の部屋

● 派遣大学・所属研究室の概要

UBC は 1908 年に設立され、現在二つのキャンパス合わせて学部生が 5 万人ほどいて、修士と博士課程の学生は 1 万人ぐらい在籍している。大学は Downtown から少し離れていて、そして物価は東京より安いので、毎日弁当を持参すれば、生活が困ることはないと思う。留学先の指導教員は最初から私に論文のまとめと Peer Review の仕事を与えてくれた。教員とのミーティングもたくさんセッティングされた。私が在籍していた Sauder Business School では研究室ごとに部屋があるわけではなく、全学科の Master と PhD 学生が同じオフィスを使っている。おかげで、異なる分野の先輩と交流することもでき、研究に役立つアドバイスをたくさん受けている。



図 2 広々とした研究室

● 現地での勉強について

研究面で過去の 8 ヶ月間は主に文献レビュー及びデータの整理をしてきた。私は中国の航空と高速鉄道の競争及び連携に興味があるが、両者間の競争についての研究はす

でに多数存在しており、さらに新しい発見をすることがなかなか難しいため、私は両者の連携を研究のターゲットにした。しかし、中国では高速鉄道の運営状況に関するデータがほとんど公開されていないため、研究の大きな制限となっている。幸いに、受け入れてくれた教授は中国の交通分野に大変詳しいため、たくさんの情報や参考文献を進めてくれた。

私が参加した交換留学のプログラムは研究がメインであるので、UBC で授業の単位を取ることができないが、2学期目は聴講生として **Air Transportation** という授業に参加した。担当する David 教授は長年バンクーバー空港を含めてたくさんの空港及びエアラインのコンサルティングをし、授業の内容は理論と実例が充実していて、大変面白かった。クラスメイトはみんな学部生だが、エアカナダで勤務経験があった人、マイルージをうまく利用してファーストクラスで世界中を旅行する人 (CNN で取材されたらしい!) などいて、授業中のディスカッションがいつも活発で、私は大変勉強になった。

● 日常の活動・体験

UBC では、春休みの代わりに、中間試験の前の一週間を **Reading break** という休みがある。名前の通り、学校側はおそらく学生たちを授業の勉強及び復習に集中して欲しく設けた「休み」だが、多くの学生はそれを気分転換の期間として使っていると思う。私は日本にいた時からボランティア活動に興味があり、都内の小学校で英語を教えたり、福島の子供に元気付ける英語キャンプなどたくさん参加したりした。カナダの子供はどうなのだろうと思い、

Reading break を使い、**community center** で5~12歳の子供150人に自信を与えること (Empowerment) を目的とするアクティビティをした。UBC からボランティアは25人ほどいて、絵本の読み聞かせ、図工、スポーツ、音楽とダンスの5グループに分かれ、私はダンスチームのリーダーを担当していた。活動の内容を考えた時に、50分間にダンスが苦手な子供でも楽しませるような配慮をした。例えば動きの難易度を下げるとか、今の子供たちがハマっている曲を使うとか。活動の当日、私たちはほぼ休みなしに、5グループの子供たちと一緒に4時間ほど踊って大変疲れたが、子供たちの元気な顔を見て、やはり参加してよかったと思った。

次は、留学中に研究の2番目に頑張ったことについて詳しく書きたいと思う。

大学の競技ダンスサークルに入ってから初めてのコンテストは **Team Match** という、約15人のチームで一つのテーマに沿って、5分以内のダンスを披露するイベントである。今年のテーマは「世界を救う」で、私のグループは統治者に鎮圧された女性の囚人たちが革命を起こし、ダンスとミュージックで世界を救ったというストーリーを演じた。グループメンバーの半分以上がダンスの競技ダンスの初心者であるため、コンテストの前の2週間は練習漬けだった。振り付けはそこまで難しくはないが、グループとしての一体感をいかにうまく見せられるかで大変苦労した。本番で、グループの皆さんの努力が形になり、5チームの中で1位を手に入れた。これは私の人生初のトロフィーであり、競技ダンスへの興味が深まるきっかけとなった。



図 3 ボランティアたちの集合写真



図 4 パートナーと Jive を踊る様子



図 5 ブロンズ級のラテンの優勝を取った私とパートナー

競技ダンスクラブの活動で、現地の方との交流を深まったほか、中国の高校で部活の経験がなかった私は、ペアで大会に向かって、一生懸命に練習することを経験した。大会の内容はスタンダード(ワルツ、クイックステップ、タンゴ)とラテン(チャチャ、ルンバ、サンバ)の6種類のダンスがある。特に、ラテンダンスでいかにシャープかつ艶やかに踊ることが、恥ずかしがり屋の私にとってとても難しく、大会の前に、パートナーと二人きりでアイコンタクトだけの練習を作るほどだった。今年の2月の大会では、初心者の私は pre-bronze、bronze 級の試合に出たが、試合の経験が乏しいため、酷く緊張してしまい、決勝戦に進

出することすらできなかった。しかし、入賞した参加者のパフォーマンスを見て、自分がこれから目指す姿がはっきりとなり、練習のモチベーションがさらに上がった。そのおかげで、3月の BC 省のイベントで、私は1位を一つ、3位を二つとった。1位のトロフィーは1年中に保管することができ、来年の試合までに返却し、私とパートナーの名前が印字されてから、次のチャンピオンに渡される。

● 感想

過去の8ヶ月間はたくさん勉強し、自分の新しい可能性を発見し、さらに大切な出会いをした半年だった。一年前の自分はどう考えても、バンクーバーで150人ぐらいの友達(フェイスブックの新しい友達の数)ができると想像すらできないであろう。中国の旧正月の時に、私は一軒家を借りてパーティーを主催し、様々な国の友達15人ほど集めて、みんなで料理をして、餃子を作った。誕生日の時も友達からたくさんのメッセージが来て、その日はたまたまダンスのレッスンがあり、みんなが私に誕生日の歌を歌った。正直私は留学の前に、他の先輩の経験を聞いて、本気で現地で友達作れるかを悩んだ。今では、私のこと好きでいてくれる友達がこんなにいる、本当に留学してよかった、ダンスクラブに入ってよかったなあと考えた。



図 6 カナダ人に中国の民族舞踊を教える@旧正月パーティー

私は新しい環境と刺激の中で自分がどれほど成長できるかを見たくて、常に自分の限界を挑戦するようにしている。学部の時も交換留学と海外での生活を憧れていたが、金銭的な問題で残念ながら見送られていた。今回、工学系学生国際交流基金のサポートで留学することができ、本当に感謝している。今からちょうど一年前に願書に書かれていたことを忘れず、応援してくれた方々からの期待を裏切らないように頑張る。